

第8回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

- 1 日時 平成17年9月21日（水）午前9時30分～午後0時30分
- 2 場所 長野県庁西庁舎 301号会議室
- 3 出席委員

中村 正行委員長	若麻績享則委員
森野 貞雄副委員長	清水 保委員
中沢 一委員	坂口 昌夫委員
小山 元彦委員	小山 壽一委員
牧 重信委員	宮本 精一委員
市川浩一郎委員	丸山 稔委員

4 開会

（三澤教育支援主事）

それでは、時間になりましたので、委員長様よろしく願いいたします。

（中村委員長）

委員の皆さんにはお忙しいところ、ご出席いただきありがとうございます。第8回の高等学校改革プラン推進委員会を始めさせていただきます。第7回では多部制・単位制についてご議論いただきました。本日も続きのところをお願いしたいと思います。検討材料として提出していただいています候補案についてもご意見を賜りたいと思います。まずは資料の説明を事務局をお願いしまして、その後委員の皆様から地域あるいは各団体の議論の様子など、情報がありましたら提供いただきたいと思います。その後で議事に入っていきたいと思います。

それでは事務局から今日の資料の説明をお願いいたします。

5 資料説明

高校教育課三澤教育支援主事より資料説明 【説明内容省略】

（中村委員長）

ありがとうございました。

ただいま説明いただきました資料、それから総合学科高校等、それから県の教育委員会の動向等で、何かご質問がありましたらお願いします。

（牧 委員）

お願いします。

質問ではありませんが、先般出先におりまして、塚田委員のほうからの資料について、教育委員会からご説明があったんですが、中実がなくなったらというような内容の問い合わせがありまして、私どものほうでも最近の状況についてちょっとコメントさせていただ

いた場合もありますので、ご報告をさせていただきます。

当社は製造業にありまして、高校の場合は機械のオペレーションの関係と製品検査の関係と、そのような部門を中心に採用しておりまして、この数年 10 名前後の高校の新規学卒者を採用していますが、この地区内の高校からほとんど採用をしています。

実態を見ますと普通高校、それから商業高校、工業高校、農業高校、長野市、須坂市、中野市、この辺から 10 名前後採っていますが、現場の希望は工業系の生徒、具体的に申し上げますと機械、電気、この辺の関係の生徒がほしいという要望があるのですが、会社の実態の採用を見ますと、普通高校もいれば、農業高校もあれば、商業高校もあれば、工業高校もあるということで、必ずしも現場サイドの要望に応えられないような状況になっております。

これは全体的に見て、工業科だけの生徒が求職に来るということではなくて、実態的には採れないという部分ですね。例えば 10 名採っても、10 名出ると、あるいは 20 名出るとかという形になったところで、そうは見えてないという状況ですので、そんなような状況になっています。

ではどうしても工業高校じゃなければいけないかという問題になりますが、実態的には今、いろいろお話がありましたように、社内での研修をしないとすべて進められないという動向があります。1 年というような長い期間研修はないのですが、3 カ月 OJT（仕事の現場で、業務に必要な知識や技術を習得させる研修。現任訓練）で教えて、それを含めて研修をしているのが実態でありまして、必ずしも現場サイドで希望する工業系の生徒じゃなければいけないかという形になりますと、実態的にはそういう状況でもありません。

普通高校の生徒でも、商業高校の生徒でも、農業高校の生徒でも、ある一定期間の社内研修をきちんとやれば、それなりの仕事を無難にこなしておりますし、そういう状況でありますので、強いていえば工業系のほうがやや仕事に対する取り組み方といいですか、それが興味を持って進めているような部分の生徒が多いような感じがします。

ですがそれがなくなったら、「じゃあ困ったな、どうしようもない」ということでもないもので、それなりに将来的な訓練やら教育やら、そういう環境の中で進んでいければ大きな問題はないかなという感じはしております。

昨日も高卒の採用試験があったのですが、具体的に申し上げますと、16 名が受験し今話題になっています中野実業が 4 名受験をされておりまして、長野市の高校が 4 名、中野高校が 3 名、須坂の高校が 5 名ということで 16 名受けましたが、ちょっと採用担当に聞いたら、16 名のうちの半分くらいは採用したいということで、以前は学校推薦ということで、校長先生の推薦があったりして、ほとんど採用した経過がありますが、最近の実態的に全員採用するということは、なかなか困難な状況になっておりまして、高卒であっても全員採用できないような環境にあります。

そういうことでご理解をいただいておりますが、実態的には工業系で受けられた方が電気 1 名、機械 1 名、中野実業は商業科がありますので商業科 2 名ということで、実際に工業系の関係については 2 名受けられたという実態でございます。参考までに言いました。

(中村委員長)

はい、ありがとうございました。

今の点で、あまり農・商・工・普通科は関係ない、企業のほうで研修をするからということですが、何かある程度備えておいてほしいという部分もあろうかと思うのですが、何かありますでしょうか。

3年ぐらい前でちょっと古いデータで申し訳ないのですが、私は諏訪地区の40社ぐらいの中小企業を、中国へどんどん進出しているその状況の調査ということで、長野経済研究所の方と一緒に回らせていただいたときに、やはり高卒の若い方の仕事への定着率が非常に悪いと。やはり物作りに対する興味とか関心、そういうものを持っている子にぜひ受けてほしいというようなことを盛んに言われた覚えがありますが、何かそのようなことでありますでしょうか。

(牧 委員)

昨今の状況を見ますと、十数年前バブル期の環境においては、非常にそういう離職率がかなり高かったと思います。企業の求める人材も、なかなか才能に差がないということなどで、需給バランスというか需要と供給の関係においてもそういう実態でありまして、昨今はやはり高校のみならず短大、大学を出てもなかなか就職できないというような実態もありますので、いったん決定すればそれなりの覚悟で勤められる方が多いように見受けられます。

私どもも海外に工場がありますので、そういう面では海外に向けてリーダーシップを取れるような人材育成の場を、社内的には設けるような形で現在進めているような段階です。ですから若い人材においても、どんどんいろいろな場面でいろいろな経験をして、企業の理念に基づいた活躍をしていただきたいような動きで、採用の大きな条件として本人たちにもその辺の考え方といいますか、会社の考え方・理念といいますか、持論といいますか、そういうものをお知らせしています。

ですから今日的な環境を、しっかり生徒さん一人一人が自覚されているような実態ですので、どの企業も離職率についてはかつての時代と違って、かなり定着率は高いと見ております。フリーターの問題とかニートの関係の方とは、また全然違う意味で、新規学卒だけを考えた場合、そんな傾向かと思います。

(中村委員長)

ありがとうございました。

関連して、何かありますか。あるいはほかのことで。

(丸山委員)

私の質問したことなので、今の県教委の説明ですが、各企業の方々のご意見です。確かに今、幾つかの企業が言っているような、はっきり言うとなくなくても困らない、なくなっても代替があるみたいな考え方もありますが、その中にいろいろやっぱり1個の意見の中で考えなければいけない点がありますね。

例えば実業系のことはきちんと学んでほしいとか、物作りの基礎は学んでほしいとか。

どちらかと言えば、強いて言えば、工業科のほうがいいということだとか。もちろん今の工業教育や職業教育、普通教育も含めて、高校の現場で今のままでいいとは思ってはいないのです。

ですからそういう点での内容の改革や、今の改革はもちろん必要なんです。だからその辺の産業の変化と、経済の変化の中で、どのように高校の教育が成り立っていくのかという問題を絡めて考えてると、3社だけだということだとしても非常に貴重な意見だと思うのです。

これは、資料としていただくのは無理ですか。口頭だけですか。

(中村委員長)

事務局、いかがでしょうか。

(三澤教育支援主事)

取りあえず、塚田委員様からコメントとしていただいたものですので、資料としてお出しするには体裁を整えまして出したいと思います。次回まとめてお出しするような形でよろしいでしょうか。

(中村委員長)

丸山委員、よろしいですか。

ほかにありますでしょうか。

(森野副委員長)

ちょっとよろしいですか。

ただいまの丸山さんのおっしゃることは、需要と供給との関係だと思いますよ。一方的に3社が「これでいい」と言っているのではないと思います。結局、人がないから、それを社内で教育して、研修を深めて一人前にしていくということではないですか。だから100%企業で使える人間を採用している、できるという現在の状態ではないから、社内教育を施して一人前にしていくという、会社の努力ではないかと思うのです。

教員の社会だって、先生、そうじゃないでしょうか。各担任が100%の熱意を持って、教壇に立っていますが、十分なことはできない。40人いれば、40人の子どもにすべて与えられるかといえばそうじゃないわけですね。だからそこにはやはり人間関係、企業の理想としているところの採用、不採用ということはあるかと思いますが、それはやはり社内教育で補っていくということですね。

そのように考えていきますと、やはり3社でおっしゃっていることは、私は正論かなと思います。

(清水委員)

私は保護者の立場で出席出席させていただいておりますが、私も牧さんと同様に須坂市内で小さな会社ですが製造業をしております。そんな関係で、今のお話を聞いていて思うことは、社内研修というのは、これはどこも過去よりも、さらに今のほうが大事な要素

があるんですね。

というのはもちろん牧さんの会社もそうですが、かなり各企業が特化した技術を持っておられる。一般的な基礎学力をつけた工業科の子であっても、即戦力にならないというお話が中野のほうのお話でございましたが、まさに私も納得するといつかうなずける話であって、自社そのものの技術というのは、かなり特徴のあるものが、またそうでなければ今のこの世の中では製造業としてやっていけない、そういった事情もあるわけで、即戦力にならないというのは当然じゃないかなと、聞いていて感じます。

私も採用する立場にいますが、先ほど来話がありましたように、基礎的な学力はやはり持っていてもらいたいというのが前提です。あとは本人の興味、あるいはやる気だと思うのです。そのようなことを観点に採用しておりますが、牧さんが先ほどおっしゃったように、いつときに比べて新卒者、あるいは若い人たち、全般に言えることですが、定着率はよくなってきています。やはり仕事をいうものは厳しいのだなと、いいかげんな感じですと漫然と来るといふ子たちは、以前に比べてかなり少なくなっている、そんなような気がしております。

以上です。

（中村委員長）

ほかにありますか。

次回になってしまうかと思いますが、ちょうどついなので申し上げますが、9月30日に信州大学工学部に、工業高校の教諭に来ていただきまして、全国を対象ですが、県内が中心になるかと思いますが、工学部の入試委員と懇談会を持つことになっております。

その場では、今まで大学へ入学してきた、工業高校の生徒、工業に限らない商業も若干いるとは思いますが、その生徒の勉学の状況等を話し合います。11月に推薦入試があります。それに向けて高校の先生方は参考にされていくのだらうと思いますが、その結果はまた次回に報告させていただきます。大学側としての生徒の動向ですね。今は就職の話でしたが、その辺は次回にご報告させていただきます。

今の専門高校のほかのことでもよろしいですが、何かありますか。資料説明等の質問でもよろしいですが。

（若麻績委員）

今の資料の中の1番の人口推計の面なのですが、具体的に内容は分かるのですが、この資料の根拠といいますか、算定根拠です。来月の1日に国勢調査がありまして、この結果数値によって、そういった数字が変わるような要素があるのかどうか。これは4年前の国勢調査でベースを出していると書いてありますが、これは長野県だけで出したものかなというふうに推察しますが、今度また全国での調査、それから長野県でもされることによって、その影響があるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

（中村委員長）

事務局、お願いいたします。

(三澤教育支援主事)

この推計につきましては、長野県版ではありますが、推計方法としますと全国の推計もでございます。高校改革プラン検討委員会最終報告のところにも、資料として全国版のものを掲載させていただいております。

それと同じ手法を使いまして、本県企画局で9月9日時点ということで発表になったものでございます。国勢調査等によって、人口のつかみ方がまた明確になってくるとは思いますが、この推計につきましては、1人の単位まで推定するということは当然不可能ですので、おおよその動向として発表されている形になるかと思えます。

国勢調査があって、その後またこれの変更があるのかということもはっきりとお聞きしているわけではございませんが、今回お示ししましたものは現時点のものということでございます。

(中村委員長)

若麻績委員、よろしいでしょうか。

これについては、推計の方法が別紙の2ページありますが、こういう推計をしたということで、別の推計をすればまた違う数値になるかと思えます。かなり大きな流れととらえたほうがよろしいのではないかなと思えます。

局所的に増減する、そういうものは反映されないのではないかなと思えます。

(若麻績委員)

また国勢調査の結果が出ましたら、変わりますね。

(中村委員長)

そうですね。

(若麻績委員)

結果が出てくるのは、半年くらいかかるのですか。

(中村委員長)

かなりかかりますね。

ほかにございますか。資料への確認点等、質問がありましたらお願いします。

(清水委員)

ちょっとよろしいでしょうか。

すみません、ひとつ教えていただきたいのですが、この『屋代南高校の入学者の状況について』という資料なのですが、これはこれで「なるほどな」ということなんですが、これは大変申し訳ないんですが、こういったものに基づいた資料なんですか。基づいたということは、つまり何に対して出てきた資料なのでしょう。

何か、前回質問があったのですよね。

(中村委員長)

そうですね。前回これは委員会として要求した資料なのですが、屋代南高校へ多部制・単位制を設置するという案が出されまして、そうすると坂城高校の資料と同じように、数値のデータは、検討材料としていただいておりますということで、数値のデータのところを同じようにつくっていただいた、そういう資料でございます。

(清水委員)

はい、分かりました。

(中村委員長)

数値は、学校要覧を見れば確認できる数値でしょうか。

(三澤教育支援主事)

各中学校別の出身者については学校要覧で分かるのではないかと思います。ただ中学校別の進学者の動向につきましては、定時制ですとか私立高校等も含んでおりまして、各高校側からの要覧から引き抜くことは不可能ではないかと思います。

(中村委員長)

分かりました。

必要があれば、事務局にお願いすれば出していただける数値であるということですね。よろしいでしょうか。

(清水委員)

あと確認ですが、この第2区中学とか第3区とか、この区についてはあとの旧通学区のことを指していることに間違いありませんね。

(三澤教育支援主事)

はい。第2区、3区と書いてありますが、旧通学区のことを意味しております。

(中村委員長)

ほかにございますか。

それでは、議事に入る前に、各地区の動向、あるいは団体の動向、何か情報がございましたら紹介いただきたいと思います。各委員さんで、情報を持っていられる方、紹介をお願いします。議論に生かしていきたいと思います。

ある地区では、今日本格的に議論がスタートするというようなことも聞いておりますし、始まったばかりという観はありますが、それでもどのようなことに観点があるのかというところで参考になるかと思しますので、ご紹介いただければと思います。

では私のほうから、今日新聞に載っていたことで、長野県PTA連合会が昨日、高校の再編の不安、軽減する措置を要望ということで、県のPTA連合会が統廃合の対象になっている高校を志望したり、選択肢として考えている生徒やその保護者らが不安を抱えてい

るということで、その不安を軽減するための対策を早急に応じてもらうように、求める要望書を県教委へ提出したと新聞には書かれております。

要望書の内容は、私は県のPTA連合会の赤羽会長から直接いただきまして、手元にあるのですが、明確に2項目を申し入れますということで、そこだけちょっと読ませていただきます。「現在行われている再編整備の検討は、子どもたちの将来のための議論であることはあらためて確認し、次の点で明確かつ具体的にお示しいただきたい。仮に統合がなされたとしても、それはより良い高校をつくることを目的としたものであること。従って該当する高校の在校生や、その高校を志望する子どもたちにとっては、現行のまま単独で存続した場合に比べてさまざまな面でよりすぐれた教育環境が保障されるものであること。2、統合により発足した高校を素晴らしい学校に仕様とする在校生や先生方はじめ、学校関係者の努力を県教育委員会として、教員配置や施設財政面で全面的に支援する方針をはっきり打ち出していいただきたい」という、そういう要望でございます。

ですので、不安を抱えているので明確にどうなるのかをお示しいただきたいということと、その後の支援をしていただきたいという要望をされております。やはり白紙撤回、それから存続要求が目立っているわけですが、中学生、あるいは中学生の保護者はその先のことをもう少し心配しているようなので、この辺も改革プランのほうの推進委員会では少し重視していきたいなと、私は個人的には思います。

それと、これも新聞の情報ですが、これは誰にお聞きしたらいいのかちょっと分かりませんが、第39回平成17年度北信高等学校定時制・通信制生徒生活体験発表大会というのが、9月23日に行われるそうです。県の勤労者福祉センターで、午後2時からです。参加校は中野実業、須坂、長野吉田、長野西、長野、長野商業、長野工業、篠ノ井です。

これは教育委員会事務局で把握されていると思うのですが、一般で参加してもよろしいんでしょうか。定通大会と呼ばれているものですか。

(三澤教育支援主事)

生活体験発表会は毎年行われていると思いますが、一般の方でも傍聴できますので、ぜひお出掛けください。

(中村委員長)

ぜひ委員さんも傍聴して、また議論に生かしていただきたいと思いますが、生徒の「生の声」が聞けると思います。

私のほうは以上ですが、長野南高と県の教育委員会事務局との討論会のほうは、ほかにも委員さんが参加されましたが、私も行ってまいりました。先ほど事務局から報告があったことでございます。

ほかにもありましたら、お願いします。

(小山(元)委員)

飯山の関係を、報告だけさせていただきたいと思います。

昨日夜6時半から8時まで、飯山第一、第二中学の学区の保護者、地域の方々、また先生方お集まりいただいて岳北将来の高校のあるべき姿という立場で、いろいろなご意見を

出していただきました。

そして助言者ということで、小山壽一飯山北高等学校の校長先生と私と2人で参加させていただきまして、いろいろな立場から資料も示しながら質問を受けながら話し合いをさせていただきました。

約70名の参加者があったと思います。そしてやはり地域の方が非常に興味を持っておられます、少子化の傾向ということは十分承知の上で、やはり前向きに考えていくという印象を受けたわけでございます。

そしてまた今晚、6時半から8時まで、今度は飯山第三中学校区のPTAの方々、地域の方々、それぞれの関係の方々においていただいて三中の体育館で開く予定であります。

以上であります。

(中村委員長)

ありがとうございました。

ほかはございますか。

(清水委員)

前回この会議があった、まさにその日だったのですが、9月10日の1時半から千曲市総合観光会館というところで、第22回の「長野県高等学校父母教職員の集い」という会があって、そこに高校のPTA会長という立場で出席をさせていただきました。

その会合というのは、この名のとおり各高校の組合関係の担当の先生方およびPTAの会長、副会長、ほか役員というメンバーが集まった会で1泊で行われたのですが、やはりこの会においても高校改革プランのことについて、当然話題になりました。

いろいろな話があったのですが、その後も分科会に分かれていろいろな話があった。そういったオフィシャルのところではなくて、むしろ10日の夜の懇親会の席上、もちろん全員の方と話ができたわけではありませんが、一部のPTA会長と話をさせていただく機会がありました。

そのときの特に多部制・単位制についての話なのですが、ちょっと具体的な話になってよろしいですか。

(中村委員長)

はい。このあと引き続き、議事のほうに入っていきますので、よろしいかと思います。

(清水委員)

坂城高校の多部制・単位制のことから屋代南のお話の中沢委員さんのほうから出ましたね。そのときに、第二推進委員会のほうの絡みの話が出たと思うのです。

つまり屋代南については、確かに坂城よりも若干中心部に位置しているわけで、そういった関係で坂城になった場合には、旧1区のほうから通学が不可能という議論の中から、もう少し中心部に持っていったらということも踏まえて、屋代南という案も出てきました。その中で第一推進委員会のほうで、話をしていくのはあくまでも現1通学区の中でだけの話で、私はいいんじゃないかと初めに思ったのですが、どうもいろいろなPTA会長さん

と話をしている中で、隣接の第二の推進委員会の人たちの絡みの中で話しをしていったほうがいいのではないかという話が出ました。

つまり上田地区から坂城とか、屋代南、どこの学校ということではなくて、通える範囲として多部制・単位制の高校をどこに置くかということの議論をすべきではないかなというような話になったということだけお話しさせていただきます。

(中村委員長)

ありがとうございました。

ほかにありますでしょうか。なければこのまま、議事のほうへ移りたいと思いますが。

(若麻績委員)

先日長野南高校での会合に私も行ってまいりました。先ほどご報告があったとおりなのですが、保護者という立場から2、3、お話をさせていただきたいと思います。

ひとつは、やはりこの南高に入った1年の保護者のほうから、たまたま中学校が私のほうで同じだったものですから、何人かの方がみえたのですが、1年生に入って、仮にその話が進んでいった場合のことを、大変心配されておられる中で、やはり19年度という施行は、1年生とすれば3年生のときにやるんですね。

そうするとやはり入学当初の気持ちが大きく揺らいでしまったというというような子どもの、微妙な心情についてお話しされておられました。

19年度というのは、今の1年生が3年生のときということで、それがはたして教育環境として魅力あるという立場からよるのかどうかということが、保護者の間で話題になっているような気がします。

私ども推進委員として、いろいろな方と接する中で、説明ができる部分と口ごもってしまう部分がありまして、そういう中でやはり保護者の立場としては、魅力ある学校づくりのひとつの大きな意味から、数減らしとか数の問題ではなくて、どういう形のものができていく、その過程ですね。

例えば年度にこだわるのではなくて、将来の、近い将来の話として、どういう形にこれになっていくのか。ですからそこにはこういう魅力の学校ができてくる。そのためには、そのもっともっと大きな意味の財政面からと、訴える力のある言葉、それから訴える力の材料が少し不足しているかなと、私自身もそう思っていますけれども、保護者の方のさまざまというのは、実にそういうことにあるのだということだけお伝えしておきます。

(中村委員長)

ありがとうございました。

(森野副委員長)

ただいまに関連してですが、これは今のお話を多部制、お話ししていてもいいのでしょうか。

(中村委員長)

各地区の状況のご報告でなければ、このまま議事に入りたいと思います。

(森野副委員長)

それでは、いいですか。

(中村委員長)

それなら、私のほうから先に申し上げて、議事に入らせていただきます。

前回新しい観点で中沢委員のほうから、多部制・単位制の配置のほかのご提案がございました。今の検討材料のほかのご提案がありまして、これは他の地区も考えられた上で屋代南ということを提案されているわけです。

その中で、都市部へという話も出されておりました。都市部へというところを、もう少し議論しておきたいかなと私は思います。それと先ほど、清水委員のほうから第2通学区との関連のお話も出てまいりましたので、当然隣接の通学区と協調していかなければいけないことだと思います。

話し合いを持つかどうかとも考えなければいけないのですが、その辺と丸山委員からは一貫して定時制の充実ということで、近いところに通いたい、それから少人数のメリットということを訴えられておりますので、この辺を考えながら、今日もう少し深く議論をしていただきたいと思います。

では森野委員から、お願いしたいと思います。

(森野副委員長)

それでは、よろしくお願いいたします。

ただいまのことに関連してというようなお話でございますが、以前から丸山さんがおっしゃっているように、子どもたちの多様性といいますが、さまざまな子どもを大切にしたいな、私もそう思います。

そしてやはり屋代南へ持てきたいという気持ちを、交通の便というものをまず優先しないと、子どもたちは学習したり、体験する機会というものが失われてしまうと。私は前から言いますように、公教育というものを、県ではどういうふうに考えているか。ただ学校数を減らしていくというのではなくて、やはり利便性というものを考えていきますと、交通の便というものが優先されるだろうと。それで屋代南ではないかなと思うわけです。

それから2通学区との関係なんです、これがやはり第1通学区で実施をみて、そのあとではいいのではないかなと思います。そんなに急がなくても、2通学区の場合は野沢でしたか。そっちへ行くとのことで候補が出ていますが。そうするとやや南佐久のほうで遠くなるから、というような気がするのですが、それはやはり地元を固めていかないと話は進まないのではないかなというふうに思いますので、2通のほうの位置的なことはどうこうとしまして、1通学区のほうで、やはり屋代南が最適かなと思います。

ここに拠点を置いて、子どもたちを大事に見守っていききたいと、教育の機会というものを増やしていったりやりたいなと思うわけです。そんな意味で、ぜひとも屋代南が最適というようなことで、進めていただければと思います。

(中村委員長)

第2通学区の議論ですが、第二推進委員会のほうでは何か議論があったのでしょうか。あるいはそういう動向といいますか、動きはありましたか。

(三澤教育支援主事)

第2通学区のほうでは、やはり第一推進委員会で、どのように多部制が配置されるかということを考えていかなければいけないという意見も出ていたという状態です。前回も説明したかと思いますが、第一推進委員会でどう考えるかという部分を見たほうがいいのではないかという委員さんもいらっしゃるということでございます。

(丸山委員)

この問題は、私も前にも言いましたが、屋代南では坂城と同じだと思います。多少こっちへ来たということで、河東線はありますが、河東線がどんなに不便か分かりますか。夜、行く可能性があるわけですよ。無理ですよ。

つまり須坂以北の子たちは、屋代南でもちょっと無理ですね。それから第2通学区との問題は、やはり関連して考えていけないと思います。私の情報では野沢南というのかなり問題があるという意見が多いと思いますね。かなりあそこも、第2通学区を見ると、場所的にかなり偏っていますね。

そういう点は、私は多部制・単位制は現在言ったような意見を持っていますが、もし設置するとしても、やっぱりその地域の中心の都市部ですよ。それが一番いいのではないかと思います。

そういう点では、第2通学区との関係はやっぱり、第1通で決めちゃってから、「じゃあ2通学区、おれに合わせて考えよ」という話は、ちょっとまずいんじゃないかと思います。というのは坂城という名前が出た県教委の説明でも、2通学区との関連で坂城がいいという話だったわけですよ。

しかし、第2通学区が上田周辺になったらどうしますか。近すぎますよね。そういうことになるから、第2通との関連は、もし多部制・単位制を設置するとしたら、そういうことがあるというのがひとつです。

それから都市部に設置するという場合に、そのときにまさにこれはひとつの学校をつぶして転換するというやり方だから、「あっちへ持っていけ、こっちへ持っていけ」という話じゃ、それじゃまとまらないですよ。現実問題。持っていかれたところは、当然反対するでしょう。ひとつの学校がなくなるんだから。

名前が残るかもしれませんが、中身が変わるんだから、普通科じゃなくなるとか、そういうふうになるわけだから。そうするとやっぱり都市部で、私が言っているように定時制併設のやり方で、確かに独立校舎の、単独の、という話はある、それがベストかもしれませんが、しかし多部制・単位制をつくるという本来の根拠というのは何なのかと考えると、やっぱり定時制のあるところに幅を通じさせて、あるいは全日制に併設させるという、場合によっては別な校舎というようなことが、もし生徒がだんだん減ってきて校舎が余るような話になってくれば、そういうことも含めて検討できないのかなということがあるので。

だから２つ言いましたが、１つは第２通学区との関連はこれは十分検討して連絡を取り合いながらやらなければいけないということ。それからやはりひとつの学校を転換してやっていくということは、「あっちへ行け、こっちへ行け」という話で、それはまた同じ議論になりますよ。屋代南では全然、坂城と同じように第２通との問題が解決しないと思います。

（中村委員長）

都市部へというものですが、例えばどこかに配置したとして、それで今まで出ている案と比較するということは可能かと思います。

それと今、丸山委員は一貫してなのですが、やはり分散して定時制の充実ということなのですが、そういうものも含めて考えていきたいと思いますが、何かご意見はありますか。

（森野副委員長）

それで確認なのですが、定時制は長野高校と長野工業が残るわけですよ、別に。そうしますと、私は屋代ということを申したのですが、そこが拠点となってタコ足配線ではないですが、今も丸山さんのおっしゃるのには線が一本引けるわけです。

ですから多部制・単位制、学ぶ機会というものを、大学とかですと通信制というのがありますよね。そこで夏なんかサマースクールだとか、いろいろ一定の期間寄り合って学習する場面がありますね。そういうようなかたちで機会というものが、十分出てくるような気がするのですがいかがですか。

丸山さん、その辺、どんなふうにお考えになるか。なかなか平行線だね。

（中村委員長）

はい。多部制・単位制と定時制という、その辺の議論もしなければいけないと思います。

（中沢委員）

また確認のようなお話になりますが、この前お話ししたのは、まず70%近くの方々が普通高校へはいる。ではその普通高校をどういうふうに配置するかということになると、例えばしなの鉄道沿線を見ると10キロに、あるいは7、8キロに1校ずつ普通高校が配置されていますよと。

そういうことは、その地域で普通高校へ入るのだから、そしてまた帰ってきていただくという中においては、どうしてもその地域に適切なものを配置しておくことが大事だよと。そういう中で、普通高校が大事だということを申し上げたところでもございます。

そしてそういう上に立って、じゃあどうかということで、今まで私が言うには、お話のありましたように多部制・単位制の高校ということが、ここへ課せられたひとつの課題であると、これは大事なことだということで進めてきているとするならば、その多部制・単位制は長野市、あるいは須坂市、そして千曲市にということを重々申し上げていたわけでございます。

それはこの第１通学区の中で、ただ県のほうの考え方等で示される中では、第１通学区と第２通学区をつなげてものを考えるというお話になれば、上田あるいは上田千曲高校の

定時制もともに頭の中に置かなければいけないなと思います。

そうしますと長野あるいは上田のほうを含めると、たまたま屋代南高校、そこには普通科もございますが、屋代高校にも普通科があるという話になると、ひとつの候補じゃないかなと。周辺、長野からも近いということを申し上げたわけでございます。

それは県の、1 通学区と 2 通学区両方が使えるという中の位置づけということでございまして、坂城と屋代はしなの鉄道で 7、8 分の違いしかない場所でもございますので、そういった位置づけとしてはいいかなと、このように思っております。

もうひとつには普通高校の話が出ましたが、例えばこの間諏訪のほうの高校はほとんどそのままだというお話があったわけでございますが、その諏訪を見ると、清陵高校でさえも 240 人という枠の中で進められているということでございます。

ところが、ここの旧の第 4 区、第 3 区、あるいは上田地域では、それを上回るクラス数を何校かが持っている。こういった面も考えると、これからの高校の配置という中では、県のほうでも 7 クラス、8 クラスを持っているような高校も、清陵高校並みに 6 クラスにという方向も、ひとつ進めていかないと、大きいところはそのままという議論は、ちょっともう少し考えなければいけないのではないかなと、そんな思いがいたします。

（中村委員長）

ほかにございますか。

（清水委員）

前々回に頂いた資料だと思いますが、この「県立高校再編整備候補案について」の 10 ページを見ますと、まず県教委の方々にちょっとご質問するのですが、10 ページの総括の部分で、「第 1 通学区から第 2 通学区にわたり通学圏が広域であることから、東北信の定時制・通信制の中心的な高校としていくことができる」と書いてあるんですが、県教委の方々がお考えになっているのはあくまでも第 1 通学区と第 2 通学区を視野に入れた上での多部制・単位制の配置ということで考えておられるのでしょうか。

（中村委員長）

事務局、お願いします。

（柳澤教育主幹）

候補案の説明の文章の中に、今お話しのございました記述があるわけでございますが、多部制・単位制につきましては、それぞれの通学区に 1 校配置ということでお願いをしているわけございまして、東信の方は先ほど言いました野沢南にという候補案になっているわけであります。

通信制は現在松本筑摩高校と長野西と、県内 2 校にございまして、今後も引き続き 2 校に配置ということなんです。第 1 通学区の多部制・単位制高校のところは通信制も併設をしていくという候補案になっております。前に資料をお出ししたかと思いますが、通信制の長野西高校在籍者が 2,000 名に近い在籍数がございまして、2,000 名がすべてその年度に活動しているかということではございませんが、毎年受講登録をしまして活動数という

のは少なくなるわけですが、相当数の活動生がおります。小諸・佐久地域からも通信制長野西高校に在籍している数も多数ございますので、そういった視点からも、中心的なというような意味合いで考えたということでございます。

東信地区の多部制・単位制高校に転換をしていく学校におきましても、通信制のスクーリング会場として活用するなど、そういった工夫は当然ネットワークの中でしていく必要があると、こんなふうに考えております。

（清水委員）

ありがとうございます。

私の考え方ですが、以前もお話ししましたように定時制のほうのかかわりを持っておりまして、高校生の生活体験発表を2年ほど聞いております。

そういったことから感じるのですが、やはり多部制・単位制のよさというものを、今日までのこの会議の中で、ある程度認識はしているつもりなのですが、定時制のよさというものというのは捨てがたい、捨ててはいけないというのが私の考え方です。

先ほどの資料の10ページの下のほうにも書いてありますが、「中野市に1校、それから長野市北部に2校の夜間定時制を維持した上で」と書いてあるんですが、こうなりますと、夜間の定時制というものが北のほうに集中しているわけで、南のほうにはないですね。

多部制・単位制については、あくまでも私的な考え方ですが、やはり都市部に持って行って、1通の長野南のほうに夜間性の定時制を持っていくということとはできないのかと思っておりますがいかがでしょうか。

（小山（壽）委員）

前提として考えていきたいと思っているのは、ひとつは多部制・単位制を新設することとは考えられていない。そしてそれは前提である。多部制・単位制を設置するに際しては、既設の学校を転換していく。これが前提になっています。これがひとつです。

また多部制・単位制という学校は、やはり今生徒が多様化していく中で必要であるということは、平成13年であったか、平成14年に、長野県の定時制のあり方についての検討委員会が行われて、1年間にわたって検討をされて、報告も出されているわけです。

（中村委員長）

14年ですね。最終報告に記載されています。

（小山（壽）委員）

そうですね。

そういう中でも、多部制・単位制を設置していくべきだという考え方が出されてきた。またこの高校改革プランの検討委員会の検討においても、この方針が踏襲されて設置していきましょう、そういう前提の中で今、議論をしているのではないかなということを、まずもう一度前提としてお考えいただきたい。

確かに新設していくということであるならば、今の長野市内でしかも駅に近いところということが考え得ると思いますが、既設校を転換していくということになった場合に、長

野市内に適当な候補たりうる高校はないですね。

これは先ほど上田市内という話がありましたが、上田市内も同様で、もともと上田市内は4校あるのですが、上田市内の4校が大きくなっていますが、もともと上田市内の学校数が少ないことから、必然的に1校あたりの規模が大きくならざるを得ない。そういうことで、大きくなっているわけです。

これは長野市内についても、同様なことがあって、これは流入の問題もあります。やはり大きい学校はこのようなことがあることから、それを前提に考えていただきたいと思います。

それから今の清水委員さんの話ですが、多部制・単位制の場合には夜間定時制も設置されていますので、今のお話であるならばこの新しい学校で夜間定時制があると。そして残る定時制高校にも夜間定時制の学校があるということでございます。

ですから違いはどこにあるかというと、新しい学校は定時制の単独校である。それに対して例えば中実、長野高校、長野工業は併設校である、こういう違いであるとお考えいただければどうかと思います。

(中村委員長)

清水委員、いかがでしょうか。夜間定時制と考えた場合には、多部制・単位制の中に含まれるし、多部制・単位制にはその魅力といいますか、それ自身の魅力があるわけです。

最終報告にも多様化のために、このような高校を設置していくという報告がございます。また推進委員会も配置を考えるという、今、小山(壽)委員からご指摘いただいたとおり前提として、配置していくというのがあるかと思えます。

(丸山委員)

ひとつは、前から出ているように夜間定時制の今の役割からすると、生徒の実態からして近くであって、小規模というのが非常に大きなメリットとしてあるわけです。

それで力をつけて、今までうまくいかなかった子たちも、力をつけていくというか、変な言い方ですが立ち直っていくというか、そういう部分がいっぱいあるわけですよ。

ところが多部制・単位制というのを本格的につくると、これはかなり大きな規模になるというふうに私は思います。そうすると夜間定時制があっても、それはなかなか行けない子が出てくる、しかも遠いですよね。そういうことがあるというのがひとつです。

それから小山(壽)先生がおっしゃった前提の問題も、確かにそのとおりですが、議論していく中で、ひとつの学校を転換してということが無理な場合だって出てくると思います。そうすると例えば、大都市部のところにつくる場合に併設ということが考えられないのか。

それはもう一遍言いますが、多部制・単位制については私は幾らでも疑問があるんですよ、本当にそんなにいいのかという問題。多部制・単位制が何がいいかというと、独立校舎があった場合に、独立で併設じゃないということがありますよね。全日制と同居していないということが、そのメリットとしてあるかもしれません。

もうひとつ多部制・単位制というのは3部制だとしたら、午前・午後・夜間ということですよ。今の高校生というか若者の多様な生活態度、朝だめだとか、長時間だめとかい

う、そういうスタイルの中で自分の好きなときに、午前中行く、午後行く、夜行くという、あるいはそこを渡って単位を取るとか、そういうことができるということ。それから単位制の問題だと思うんですね。

ただそれが、私はいろいろな話を全国でも聞いていると、多部制・単位制の中で困ったことが幾つかあるんですよ。それは3部制になっていると、正直学校の運営は非常に大変なんですよ。しかも午前だけという子じゃなくて、午後受けて、夜も受けて、というような話が出てくるわけでしょう。それで3年で何とか単位を取りたいというような子どもね。

そうなってくると、生徒の掌握とか生活指導の問題で、非常に苦勞をするんですよ。掌握ができない、現実問題として。そういうふうなことだとしたら、多部制・単位制のメリットを生かすということだとしたら、昼間部と夜間部ということで2部制にして、独立校舎でなくても併設でできるのがないのかというのを都市部の分も含めて検討すべきだと思うのです。

確かに決まったことは、独立校舎でひとつの学校を転換するということですが、しかしそれも含めてもしもっといい方法というか現実的な方法があれば、それは検討すべきだと思います。

それからちょっと言葉尻で申しわけないですが、ほかの人がおっしゃったことで、私は都市部、長野市内がいいというけど、私もどこということをイメージしているわけじゃないです。

まだなかなか検討できないんですが、しかし長野市内でつくるところはないということは、では屋代や坂城ならいいのかという問題で、これは屋代や坂城なら転換してもいいのに長野市内の高校は転換しちゃいけないのかという問題は、これはよくわからないと思うのです。

だからまず私は長野市内に転換して1校つくれということではなくて、長野市内なりほかの大都市でも含めて、やはり2部制にして少しやってみて、工夫をしてみるということも必要ではないのか。だからもう少し定時制の配置を、全体を考えて、検討すべきことがひとつ。

それからこういうことはどうなんですか。第2通学区との関係はどうなっているのか、もし第2通学区の推進委員会で、「やっぱり野沢南は遠すぎるよ」と、「端っこ過ぎるよ」と。それは坂城ということ、屋代ということだと、そうなるわけで、それでもいいかという話になるかもしれませんが、それがもし第2通学区と独自に考えて、位置的に言って「上田」や「小諸」がいいよという話になった場合に、坂城、屋代でいいんですかという話が、当然出てくるわけです。

つまり県教委の案のひとつの条件は、今、坂城という案になっているところは、第2通学区も含めたかたちで、しなの鉄道沿線のところも含めたかたちで広域で考えるわけですよ。そうするとそれがもし、しなの鉄道沿いに2通のほうがいろいろ検討した結果、「やっぱり無理だな、こっちへ移そう」ということになったら、こっちも考えるという話になるわけです。

(小山(壽)委員)

第1通学区、第2通学区はおっしゃるとおり、連絡について当然考えていかなければいけないだろうと思いますので、ぜひ委員長さん同士でお話し合いいただきながら、詰めていくのがいいのかなと思いました。

1通学区の位置によって、2通学区の影響は当然出てくる。2通学区の位置によって、1通学区も当然影響は出てくるだろうというふうに思っています。

(中村委員長)

その辺も、逐一報告し合っていないと、どちらか一方的に決めてどうですかというわけにいかないですね。

(小山(壽)委員)

そうですね。

(中村委員長)

報告しながら、議論の中に含めていくということだと思うのですが、それは事務局から教えていただければ。

(小山(壽)委員)

それから今、あちこちという話がありましたが、私がさっき長野と申し上げたのは、駅からの距離だとかを考えたときに、なかなか難しいところがあると考えています。

ですから小諸って話がありましたが、小諸は2校ありますが、ひとつは商業高校、ひとつは普通高校がありますので、やっぱり違う高校でありますので、少し冷静に考えればなかなか難しいところかなと思います。

だから議論の中で、ぼんぼんと「こっちがあるじゃないか」、「あっちもあるじゃないか」となってしまいますと、收拾がつかなくなる、そんなふうにも思うわけです。

(中村委員長)

「こっちもある、あっちもある」というのは、一応出るのですが、それ以上お話が進まないとはやはりそこにはあまり魅力がないというかたちになっていきますので、やはりどんどん出していただく、そういう経過も必要かなというふうに私は思います。

(小山(元)委員)

先回のときにも最初出された坂城、それから屋代南にこだわらずというような話を申し上げましたが、最初に多部制・単位制を出されたというふうに、自分ならどう考えたらいだろうかというのは、やはり北信地域の地形から始まって交通の利便性というのを一番最初に考えて、その後あのような提案が出されました。

交通の利便性というのは、やはり一番大事に考えたいし、公共機関でそれぞれの乗り物があるかもしれませんが、公共機関を使うのが一番多いだろうというのが想定で考えられますし、そして学ぶ生徒の立場を考えていったときに、北信地区の一番便利なところがいんじゃないかと考えたわけです。

そして県のほうで出された資料で、第3回ですか。不登校生の状況が出されました。そして県教委のほうで、ご説明された中にこの多部制・単位制の高校は、いわゆる不登校生のよりどころにもしたいと、はっきりとおっしゃったんですね。

多くの不登校生で悩んでいる子どもたちが、やはりそこが一番大事によりどころとして考えているし、また保護者の方々地域にしましても、そういうところというのはやはり大事に見ているのではないかと思います。

私も過去2年、昨年とおとしですか、県の子どもサポートプランのほうに関係させていただきまして、そちらの関係でいろいろ一緒に体験された生徒さんたち、そして保護者の皆さん方、学校関係者の方、地域の皆さん方、いろいろやってきたのですが、やはり高校生の方々も非常に悩んでいる方もいらっしゃいます。

そういう方々も、本当に行けるような場所というと、地理的に考えれば、やはり交通の便がいいところではないかということで、できれば地形的な中央ということを考えてわけです。

ただし条件を考えると、非常に難しいです。ですから私はどの学校ということは、これは挙げることはとてもできません。いろいろなそういう考えも入れながら、定時制の立場もありますし、一番やっぱり何がいいかともっといろいろ出したところで、考えていてもいいのではないかと思います。

以上です。

(中村委員長)

中ほどの時間になりましたので、いったん休憩をしたいと思います、ちょっと長めに11時15分まで休憩にさせていただきます。

お願いいたします。

【休憩後再開】

(中村委員長)

それでは時間になりましたので、再開したいと思います。中沢委員は、所用によりご退席されましたので、ご承知おきください。

それでは、ご意見を引き続き伺っていこうと思います。なかなかまとめようにも、会話が弾まないといえますか、行き詰まる感じがありますので、観点を変える意味でも、何かほかのご提案でもよろしいのですが。

(清水委員)

先ほど、小山(壽)先生からお話がありましたように、多部制・単位制においても、夜間があるということはよく理解しているところですが、ひとつとして基本的に私の中には定時制をなくさないでいただきたいという思いがあります。

定時制を夜間に限らず、先ほど丸山さんのほうからお話がありましたように、変えていくことをぜひご努力いただきたいというのが、私のほうからの要望なのです。

定時制に通っている子どもたちも、非常に多種多様というか、いろんな事情を抱えてい

るわけで、その中で多部制・単位制はちょっと話として置いておいて、定時制の形態というものを、昼間・夜間ないしは多部制・単位制の要素を取り入れたかたちで充実させていくことができないかなと思うのです。

事実、吉田高校の定時制については、そんな動きも既に始まっているということなので、そういったようなことで現在ある定時制の形態を変えていく要素はないのかなという気持ちでいます。

（中村委員長）

例えば今、多部制・単位制が坂城あるいは屋代南という案が出ておりますが、それをつくったとして、なくなる定時制もあるわけですが、残っている定時制はありますね。

そういう配置を考えたときには、これはどうでしょうか。これからの話ですから十分になるのかどうか、その辺はいかがでしょうか。定時制というかたちで、多部制・単位制ももちろん含まれますが。

（牧 委員）

すみません。

そのような多部制・単位制の学校ができ上がった場合に、さっきおっしゃったように午前あり、午後あり、いろいろあるという形態を取れば、そのエリアの中での定時制の高校の生徒さんが少なくなって、反対に言えば多部制・単位制の学校に行くことによって、減る要素というのはあるのか、どうなのか、事務局としてその辺のご検討をされたのかどうか。

ちょっと聞かせていただきたいのですが。

（中村委員長）

はい、事務局、お願いします。

（柳澤教育主幹）

前にも一度お話し申し上げたかもしれませんが、現在定時制に通われている生徒さんは、かつてのようにいわゆる勤労青少年というようなかたちでの生徒さんと、今は様変わりしておりまして、不登校であったり、あるいは全日制の課程で一度躓いたり、もう一度やり直したいとか、さまざまなケースで入学されてくるということでございまして、そういう生徒さんの中には、必ずしも夜間でなければ通うことができないという数は、かなり減ってきているのではないかと考えております。

したがって午前、午後、いわゆる昼間開校されているという状況があれば、それを利用する生徒さんもかなりの数が出てくるのではないかと、考えております。

したがって今、お話がありましたように、候補案でお示ししましたのも、それぞれ定時制も、例えば長野地区、あるいは長野市内、そういうところにはこれまでどおり配置をしていくという案になっておりますし、また統合して空いた教室、これには必要に応じて生徒さんに、あるいは保護者の皆さんの希望があればあいた教室を使って居場所づくりといいますか、学習室などを地域の皆さんの協力を得ながら運営していくというようなことも、

基本的な考え方でお示ししているところでございます。

（牧 委員）

夜間の定時制のそういう生徒が、多種多様な環境の中で、新しい学校として、そういう多部制を設けるということになると、さっき丸山さんのお話があったように、中心地といいですか、ここでいうと長野市だと思うのですが、やはり長野市に特色ある多部制・単位制の学校があってしかりかなと感じます。

なぜかという、定時制の高校が引き続き魅力があって、それぞれの地域で確実に生徒が残るのならいいのですが、万が一残らないで多部制・単位制の学校に来るような環境が、一層募るといふかたちになれば、それぞれの地域にある夜間の環境がいなくなるのではないかなという感じもするのです。

ですからどういう方向を示すかという県教委の考えもあるかと思うのですが、私はどちらかという、都市部のほうが総体的にそういう子どもたちが多いのかなと感じがします。

山間地といいですか、中心から離れた生徒たちはどちらかという、環境的にもそれぞれの地元の学校に通学する生徒が多いのではないかなと、全日制のそういう環境の中で高校生活をする生徒が多いかなという感じがするんですが、都会になればなるほど多種多様な環境の中で、子どもたちのそういう選択肢ができるような学校ができれば、ますます盛んになるのかなという感じはしますね。

そんな大きな生徒数にはならないかもしれないですが、そのように考えると漠然と言えることは、こういう特色のある学校については、都市部にあったほうが、子どもの立場からいうと、あるいは親の立場からいっても、そういう環境のほうがいいのかなという感じはします。

学校は申し上げられませんが、そんな雰囲気はありますね。

（中村委員長）

都市部にというのは、長野市内がいいということですか。

（牧 委員）

交通の便というのは自転車、通学できるのが交通の便だという人もいれば、電車のつてがあるのが交通の便だという人もいますが、すべての公共機関あるいは公共機関以外のものを、歩いても自転車でもバスでもいいですが、いろいろなかたちの中で集まりやすいということ、それはやっぱり都市部じゃないかなという感じはします。

（中村委員長）

そうですね。都市部へというご意見はたくさん出るのですが、具体的に考えるとなかなか難しいところに行きつくのですが。

多部制・単位制はさまざまな生徒ということですから、よけいに交通機関も多様であるべきだと思えないといけませんね。夜だけ通うのであれば、やはり一番便利のいいところでないといけませんのですが、昼間だと自転車やバスもありますし。

どうでしょうか。都市部に関していろいろ検討してみておかないといけないんですが、

何かほかの観点でございますでしょうか。

多分この先は、具体名を挙げてどうかなということになってしまうかもしれませんが、そこは難しいところです。

（坂口委員）

先ほど牧委員さんからの質問で、多部制・単位制高校のほうへ結構生徒が行って、定時制の運営が危ぶまれるのではないかなというふうなお話がありました。

それに対して県教委のほうでは、午前での通学ですね。かなりの数になるのではないかなというふうな表現で説明されたわけです。このあたりの把握といいますか、例えば現在定時制に通っている生徒たちに、アンケートの様な形で、もし昼間の学校があれば、そっちのほうへ行きたいかとか、そういうような具体的な数で把握しているのか。

かなりの数というのは、非常に見えにくい部分があるかなと思います。それで最終案の10ページのところで、多部制・単位制高校について記載されておりますが、午前・午後・夜間と、個々のライフスタイルというふうな表現で、非常に言葉はかっこいいのですが、それによって1校が新しい学校に転換されるというふうなこと。

確かにさまざまな多様な子どもを、公教育の場で救うといいますか、対応するということとはうんと大事なのですが、「どこに」ということはちょっと置いておいて、午前・午後・夜間、どのくらいの規模をイメージして考えているのか、ほんとに午前のほうへ、そんな生徒がかなり動くのかどうか、この辺の先の見通しが見えないのですが、もうちょっと具体的にお示しいただければありがたいかなと思います。

2通学区、3通学区でもよろしいわけですが、多部制・単位制高校の規模というふうな私たち、もし具体的なことがちょっとお聞きしたいかなと思います。

どこというところから、ちょっと離れてしまって申しわけありませんがお願いいたします。

（中村委員長）

多部制・単位制は新しい高校ですから、多分先行事例は他県の状況なんでしょうか。そういうものを参考にするのではないかなというふうに思いますが。

（小山（壽）委員）

ちょっとお願いします。

恐らく、松本筑摩の状況見ると、松本筑摩は完全なる多部制・単位制ではありませんから、あそこは午前部と夜間部、午後にも授業を開講していますので、非常にそういう意味で多部制・単位制に近いと思います。

この松本筑摩そのものの成立が、松本市内にあった定時制を、ぜんぶ松本市内に統合するという。昭和40年代の前半頃にスタートしています。その辺の状況、それから今の午前部を開設した、その状況。その辺を参考にすれば、当通学区においてもこういうことからニーズというものがある程度予測がされるのではないかなと思います。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(柳澤教育主幹)

今、小山(壽)委員さんからお話でしたが、長野県では松本筑摩高校が多部制・単位制に近い状態で、昼間部と夜間部ということでスタートをしております。そのスタートのとき、昼間部が80名募集をしました。2学級募集でございますが、夜間が1学級40名募集ということでございますが、この昼間部のほうが、第1回のときは100名を超えた応募があったかと思います。

定時制では、いわゆる学力検査で不合格者が出るということで、大変苦しかったところもあるわけでございますが、一応定員をオーバーして応募があるという状況でございました。現在も、昼間部のほうは募集定員を超える希望が出ているかと、思っております。

また他県の例ということでございますが、今ちょっと手元に詳細な数字がなくていけません。前に資料をお出ししました太田フレックス高校という群馬県の一部制・単位制高校、これも確か2、2、2、の6学級募集だったと思いますが、午前部が80名募集のところ74、午後部が80名募集で80入っております。夜間部のほうは2学級募集で34と、そんな数字になっております。

また開設2年目でしょうか、東京の大江戸高校という総合学科の一部制・単位制の大きな学校が立ち上がっておりますが、こちらのほうも入学試験の倍率はかなり高くなっていたかと思います。

それぞれどういうかたちで多部制・単位制を立ち上げるかということにもよろうかと思いますが、先ほど言いました多様な学びの場を提供できるということで、スケールメリットを生かしながら、いろいろな科目開設やいろいろな工夫ができると考えております。

多部制・単位制というのはひとつのシステムでございますので、そのシステムを活用してどのような中身をつくっていくかということは、いろいろなバリエーションが考えられると思っております。

従って場合によりまして、今、いわゆる全日制に通っている生徒さんの中からも、多部制に魅力を感じて流れるということも想定としてはあり得るかなと、このように思っております。

(清水委員)

ちょっといいですかね。

こだわって申しわけないですが、やはり先ほど県立高校再編候補案の10ページですが、この近隣校の状況の中で県教委とすれば、この文面を見る限りではやはり多部制・単位制というものを現存の定時制にかわるものという位置づけで書いているように、私は感じるのです。

北のほうには、長野高校はじめ2校、それから中野高校1校定時制が残って、南のほうには坂城高校を多部制・単位制という割り当てだと読み取れるのですが、先ほど牧委員からご発言があった、多部制・単位制のほうに定時制の生徒が流れるというのは、私はあまりないのではないかと思います。

普通校に通う子が多部制・単位制に流れるというのはかなりの部分であるかと思いますが、やはり定時制に行っている子の現状を考えると、前にも議論されましたが少人数であったり、要するに人間関係において、定時制を選んだというような子が多いように思うのです。

そういったことからすると、多部制・単位制と定時制の大きな違いは、やはり規模の大小というのも、ひとつあるかと思うのです。多部制・単位制をイメージすれば相当の規模になるのではないかと私は思っています。

やはり多部制・単位制が定時制にかわるという位置づけではなく、多部制・単位制はこれからの学校ですが、定時制というものをもう少し大事にして先ほどもお話しさせていただきましたけれども、昼間部とか午前・午後・夜間というようなことも含めて、もう少し充実を図っていただきたいというのが、私の考え方です。

（宮本委員）

すみません。

中学校の立場で進路指導をしていますと、定時制へ入る子どもも何人かいますが、その子どもたちの様子を見ますと、定時制に入りたいと進路を決めた生徒は、私の経験上ほとんどいません。

普通科を目指してしまして、なかなか入れなかった子がいましたし、あと就職を決めた子で就職後、やはり定時制に行きたいという子が何人かいましたが、場所によってまた、個々によって違うと思いますが、定時制を「この学校がいい」と言って選んだ子は、あまりなかったです。

それと長野西高校は通信制がありますが、「通信制がいい」といってうたうのではなく、進路の関係で不登校ぎみというか、不適應を起こした生徒たちに先生が「どうか」という形で勧めた子どもたちが多いですが、同じように定時制についても、県の説明がありましたが、普通科へ行けずに定時制しか入れなかったという生徒も、かなり多かったものですから、今の定時制の魅力づくりということに、また論議が出てくると思いますですが、中学校の進路の中では、そうは行ってこなかったです。

（中村委員長）

多部制・単位制をつくったからといって、定時制をおろそかにするというのではなく、やはり引き続き存続しているところは、魅力づくり、充実を図っていく、そういう方向だと思いますが、丸山委員、ご意見ありますでしょうか。

（丸山委員）

多部制・単位制の意義というか、どういう点がメリットかというところを考えると、多部制・単位制という名目でひとつの学校が切りかわって、多部制・単位制の新しい学校としてできるというイメージはあるかもしれません。

それから昼間と夜と好きなところに通える、簡単に通えるということ、それから単位制ということでしょうが、私は一応多部制・単位制である程度の生徒が集まれば規模が大きくなる。そんなにたくさんニーズがあるのかと思うのです。

むしろ多部制・単位制のいい面を、やはり定時制に生かすというようなことのほうが、ずっと現実的ではないか。どうしてもそう思えるのです。多部制・単位制というのは、少なくとも昼間行けるということです。昼間行けると、それは単位制だと。

ただそれはもちろん実際に学校が始まれば、学校ではいろいろ対策は立てると思うのですが、さっき言ったような問題があるわけです。それから単位制の問題でも、結局授業だけ取れば、というようなことや無学年制になるわけだから、実際には学年をつくっていくことになるでしょうけど、原則はそうですね。

つまり定時制の、人間的つながりの中で、少人数の中で、少人数と近い距離と、それと人間的つながりというクラスで、きちっとクラスを持ちながら、学年進行で担任とのつながりや先生たちのつながりとかいうものをきちっとやれるという定時制のよさというのがあるわけで、定時制をつぶして多部制・単位制に集中していくというやり方は、どうも私は納得できません。

だから多部制・単位制のいい面はあるので、それは定時制のほうに生かしていく。例えば、単位制を入れながら、クラス制はもちろん入れながら定時制をやっていくということもあるでしょうし、昼間も午後にやって、3年で卒業というようなことも工夫すればできるでしょうし、定時制だけでも昼間だけ行くという、そういう子どもがそんなにたくさんいるのかと思うのです。

それからもうひとつどうしても、そういう点で都市部の定時制を持っている学校のところで、そういう工夫ができれば、それで多部制・単位制のメリットを生かせると思います。

つまりどうしても「坂城」だ、「屋代」だという話になって、あるいは都市部だという話になって、さあどこにするという話になると、1個の学校を転換するという問題が出て、これはまとまらない。

結局どこかの学校を挙げなきゃいけないんですね。確かに小山先生が言うみたいに、長野は地理的に利はあります。しかし旧長野市内の学校は、駅からみんな遠いんですから。電鉄沿線はあるけど、長野駅から遠いんです。やっぱり長野駅に集まってきて、それで行けるというところはあまりないですね。

そういうことは、歩いていたりバスで行ったりということは大変ですね。ただ電鉄沿線は少しありますが。そういう点はあるんで、なかなか駅に近いところで、夜も昼間も、行ける時間だけ行くということになれば、長野市内でも厳しい条件はあるけれども、やっぱり定時制をどういうふうに多部制・単位制のメリットを導入しながら充実させていくかということだと思います。

ただ定時制の人数は増えていくわけですよ。減っていないですよ。それを減らして1校に集めるという問題。

それからもうひとつは通信制を集めてというところも、ちょっとこれも私はまだ具体的なイメージがないので、また考えますが、通信制も集めてしまってということも気になりますし、それから独立校舎というのはわかるんですが、現実問題としてそういうことができなかった場合には、併設でうまくその辺は工夫するということはできないのかなと思います。

(中村委員長)

一通りご意見が出たような気がします。また戻ってしまいましたので、何かほかの観点でございませうか。

(小山(壽)委員)

ほかの観点というよりは、ちょっと定時制というものに対するイメージを、ちょっと修正してほしいところですが、多部制・単位制を議論した中で、多様な生徒のニーズに応えるということもありますし、定時制へ通っている生徒がどういふ生徒かということで、今、第一希望でなかなか定時制をしっかりと希望するという生徒は少ないと、あるいはほとんどいないと、そのようなお話がありましたが、定時制高校の中で不登校の子はいます。それもかなりですね。それからさまざまな経緯を持っている、例えば全日制高校を中退した子もいます。しかしすべてそういう子だけではないと。「そういう子もいる」というところで、イメージをひとつは修正していただきたいと思います。

それからもうひとつは小規模ということですが、生徒たちは自分のいる集団が一番いいと思っている。例えば「10人を小規模」ととらえるか、「30人を小規模」ととらえるか、「40人を小規模」ととらえるかというときに、例えば上田高校の定時制は30人を超えています、それでも生徒は「小規模だ」と認識しています。

定時制の生徒は、1学級募集、特に夜間定時制はほとんど1学級募集ですので、学年を超えた集団ができます。したがってあんまり自分の学級というものに対する固執はない。

それから非常に密度の濃い集団ができますが、集団は非常に小さい集団。大きな集団はできない。クラスの中に、幾つかの集団ができる。

そのようなことも、ちょっとイメージをしながら進めていただきたいと思います。

(森野副委員長)

お願いします。

私は子どもの心理という面で、ちょっと考えさせてもらいました。子どもの中にも、「友達に会いたくない」とか、「人に顔を見られたくない」といったことがあるわけです。ですから現在ある、普通高校なら普通高校へ昼間通うということができないわけです。

だから昼間通っている友達と会いたくないがために、よその学校ということになると、やはりここであいう多部制・単位制の学校が独立していれば、同じ境遇の子どもたちが通っていますので、今までの中学の同級生と会うこともないというようなメリットは、確かに出てくるような気がします、この辺はいかがでしょうか。

もう見たくもないと、会いたくもないというような子どもの中では、やはり独立校というのは生きてくるのではないかなと、そんなふうに思います。

(宮本委員)

先日、保護者と話をしたときに、高校に進学したお兄さんの話になりまして、今、休学をしているということです。保護者の立場から言うと、高校は義務教育ではありませんから、休学や退学、進路変更というのがありますが、以前にも多部制・単位制の必要性についてお話ししたと思いますが、今子どもたちも多様化をしているものですから、普通科の

ほとんどが学年制を取っていますので、1 単位でも落とせば次の年にまた全部の単位をやり直すということになっています。

それで高校側の毎年の退学の資料を見ますと、進路変更というのが一番だと思いますが、通信制に行けば次の年に退学にならないわけです。ですから進路変更というかたちで、退学の生徒として登録されないことになりますので、実際は高校の先生方と話し合っ、進路を変えるということになると思いますが、やはり子どもたちの今後を考えると、途中から入学ができる多部制・単位制とか、そういうメリットがかなり私はあると思います。

例えば定時制に、第一希望でなくとも就職した後、後期から入学できることも可能ですし、普通は今までの形式だと入試試験を受けなければいけないということになりますが、あるいは今、上田市内では通信制の私立学校というのが、大分新聞をにぎわせていまして、かなりのお金をかけても保護者はその学校へ入れて単位を取らせるということがあります。

現に経営が成り立っていますので、有名な校長先生とか有名人とか講師としていまして、かなり魅力を感じるというか、今の定時制よりもその学校で大学進学を狙うというような形式を取っています。時々新聞にも、募集広告にも載っています。ぜひ多部制・単位制を、あまり嫌なものだと思わないで、冒頭に P T A の連合会からもありましたが、さらに教育ができるという立場で、「ぜひこの学校で」、「ぜひこの地域に持ってきてほしい」というぐらいに充実させて、成功させてほしいなと、中学校の立場というか、教師の立場から思います。

(中村委員長)

一通りご意見が出たと思います。ほかにいかがですか。多部制・単位制が必要だというご意見、新しい魅力ということで、つくった後の不安もあるでしょうが、やはりよくしていくという方向が必要かと思います。

多部制・単位制でなくても、今の定時制の充実という方向も十分考えられるのですが、多部制・単位制が必要という、それを否定するものではないですね。具体的に配置になりますと、またあっちこっちというふうになって議論が進まないのですが、「都市部へ」というのはどうでしょうか。

積極的に都市部という意見は出るのですが、配置すること自体は難しいということになるのですが、その辺でまとめてしまってよろしいですか。

私があまり結論めいたことは、言わないようにしたいと思いますが、「都市部」というイメージが長野市内というイメージだと思いますが、もし多部制・単位制を配置するとしたら長野市内へ。これは独立校舎ですから、普通科の高校で、かなり大きい規模のところを転換してというふうになると、またその影響が大きくなるというか、かなり難しいことになるのではないかと考えますと、そこまではまだ早いですが。

(宮本委員)

初めに県のほうで話されたのですが、福島県の場合には、あれは総合学科ですか。

(中村委員長)

総合学科ですね。

（宮本委員）

多部制・単位制で惜しい分には、今までの例としてはあるんでしょうか。それとも地域というか、人口が少ないところでも成功する例というのは、県のほうでもしわかっている範囲で紹介していただければと思うのですが、どうでしょうか。

（中村委員長）

他県の例は、先ほど2つご紹介いただいたのは、あれは都市部になるのですか。大江戸高校というのは、名前は大江戸ですが。

東京都のものは、あまり参考にはならないですかね。すごく交通の便がよいですね。

（小山（壽）委員）

新潟に幾つかあります。

（中村委員長）

新潟ですか。

（小山（壽）委員）

新潟で調べてみれば。

（中村委員長）

これは資料としていただければよろしいですね。ぜひ、デメリットもお聞きしたいと思います。

（清水委員）

多部制・単位制の学校をどこにするかという話になってくると、やはり今までの話を総合しても言えることは、やはりどんな交通手段、歩いて全部牧さんの話じゃないですが、完全に不可能だということには置くべきじゃないと思います。

どこからも、何とかしたら通えるのではないかと。要するに現状の坂城高校に持ってくれば、最初から丸山さんがおっしゃっているように、飯山の方々は絶対に通えませんよね。そういったところに置くべきではないのではないかと思います。

ですから都市部に置くという言い方よりは、1通学区の中で通えるところと考えたほうがよろしいんじゃないかなと思います。しかし極論から言えばこの推進委員会の中で校名は出ないと思うのです。

そうだとするならば、乱暴な言い方で間違っているかもしれないのですが、推進委員会の合意の上で、県教委のほうから原案を出してもらおうというやり方はどうなんでしょうか。

（中村委員長）

というのは、ちょっとイメージがわからないのですが…。

(清水委員)

つまり不便はあっても、都心部に限らず、1 通学区のどこからも通えることが可能な場所ということです。

(中村委員長)

そういう観点ですか。

(清水委員)

絞っていただいたら、どうかなと。

(中村委員長)

ただ、交通の便だけが第一条件じゃない、最大の条件にはならないですね。

(清水委員)

もちろんそうです。

しかし、現在議論しているのは、やはりその点に集中していますので申し上げているわけで、それだけで決められないということも私は理解しています。

(中村委員長)

多分、ほかの高校もすべてそうだと思うのです。あの高校に行きたいといったときに、第1通学区から全部通えるかといえば、そうではないですね。特定の高校へ。

多部制・単位制も同じ扱いだと思うんですね。多部制・単位制にかわる定時制というのがなくなるわけではないですから、すべてなくなってしまうわけではないので、多部制・単位制には行きたいんだけど距離的に無理であれば、別の選択肢を魅力の中から選ぶということになるのかと思うのです。

ですから交通の便をひとつの条件にして選んでみるのは、ひとつ可能かと思いますが、それだけでは決まらないというふうに思います。

(牧 委員)

都会というか、大都市、この近辺だと長野市だと思いますが、やっぱり言えることは子どもたちが確実に、朝でも昼でも夜でも、安心安全もあるのですが、いろいろな部分で集まりやすい。地域、交通の便もしかり、いわゆる状況を踏まえるとポツンとした地域よりも、特色ある学校であればあるほど、私は都市部であるべきだと思うのです。

そういうようなイメージがあるのです。ですから多分ほかの都道府県でも、感覚的に言う「村」に多部制・単位制の学校があるかといったら、村にはないと思いますよ。町にあるかどうかわかりませんが、多分「市」にあると思うのです。

ですからやっぱり多く生徒が集まれる場所。それは交通の便も、やっぱり大きな条件だと思いますよ。それだけじゃないかもしれない。そういう子どもたちがどこにいるかといったら、やっぱり山間地の住んでいるそれぞれの家庭の中に、そういう子は少ないと思います。

やっぱり都会の、多種多様な住民方が住んでいるような環境の中に生まれて、そういう子どもたちもちょっと多いんじゃないかなという感じはしています。

ですからその辺のところも調べていただいて、また報告いただければ、何かの糸口になるのではないかと思います。

（森野副委員長）

都会は、なかなか大変だと思うね。これは学ぶ人の気持ちしかないと思いますね。と言いますのは、先ほど宮本さん、中学校の立場でおっしゃいましたが、学校って振り分けていくわけですよ。進路先を振り分けていくわけだ。結局輪切りなんですよ。

だから飯山もそうだと思いますね。飯山から長野へ受験するという子どももいるわけです。結局落ちるところは、子どもの実力なんですよ。学力もなければ、遠くへ行かざるを得ないんですよ。あるいは力があって、飯山から長野へ来るということになると、これはその子どもの力以外にないですよ。やる気、それから学力、能力、こういったものがミックスされて、高校を選んでくると思うのです。

だから中学の先生が大変ですよ。輪切りしていくわけですから。子どもがそこで殺されていくわけです。「Aという学校へ行きたい」「いや、ちょっと無理だろう」と。「1ランク落としてくれや」と、こういうふうになってくるわけです。非常に辛いところだと思います。

だからこの多部制・単位制の場合も、そういう部分になると思う。みんながよしとする線は出ないと思います。「それで、どうするのか」ということになってくると、やはり長野高校と長野工業、これは定時制が設置されています。あとの高校といっても、よそから来た場合に、乗り継ぎ、乗り継ぎなんですよ。そうなってくると、何の利があるのか。

そうすると、あと商業と工業と、あとは西が山手、長野も山手、それから吉田が飛んできますよね。これもやはり乗り継いでいかないと、交通機関は無理でしょう。そうするとその人も、結局選択する努力なんですよ。これしかないんですよ。だから100%、そういう人がどこでもいいと言うわけにいかないと思う。やる気のある者が、やはりそのルートに乗っていくしかないんでしょうかね。

そうすると長野市内の高校では無理かなと、私はそんなふうに思うのですよ。

（中村委員長）

ほかにご意見はありますか。

（若麻績委員）

私も、高校の評議員をさせていただいている中で、通信制のことをお聞きしたのですが、やはり通信に通っている子どもたちというのは、大変年齢層が広いと聞いています。

そういう方々と、昼間というか、昼間通っている普通校の子どもたちとの、やはり温度差といいますか、教育環境の違いというものは、かなりはっきりしているようでして、そこで別々な教育環境がしっかり充実することによって、それぞれが充実した教育が受けられるのだというようなニュアンスを強めております。

そういう意味からすると、やはり多部制・単位制をきちっと魅力あるものにして、1カ

所構えていくことに関しては、非常に重要だと思っております。それはやはり、通う方々の視点に立ったということです。そういう中で、やはり大きな目的を持って、多分この学校には通うのだと思います。

もちろん難しいところもあるでしょうが、より以上に強いものを持って行かなければならない学校であるし、もっと言えばポジティブな意味で魅力的なものになっていかなければいけないと思います。

さっき宮本先生がおっしゃったが、そういう学校づくりをしていくことが、これからの大事な課題だと思います。その中で、やはり場所についても、やはりあまりだからここというふうにこだわりを持つ、教育環境として持つ必要はないんじゃないかなと思います。

あまり交通の便とかといいますと、全部の学校全部が同じですから、同じ議論になりますし、そういう意味でやはり積極的なよい学校を、多部制・単位制という、新しいものをつくるんだという意味からすれば、あまりそれにこだわって議論をすると、やはりもっと混乱になっていくんじゃないかというような気がいたします。

（中村委員長）

そうですね。今、ご指摘いただいたように、交通の便に関して言えば、長野市内の高校といえども、それほど便利ではないというのがありますが、ですから個々の高校の、現実に生徒が通っているわけですから、それは近いか遠いかという問題もあって、そういう議論というよりはもうちょっと新しい観点、魅力ある新しい高校をつくっていくという観点がのほうが、重要なのかなという気がします。

距離の問題と通える生徒の数というのを、計算すれば多分最適な数字は出てしまうんですね。「人口密度×距離」というモーメントのようなものをとれば、何とか数字では片づきますが、しかしそれはちょっと魅力づくりとは違う気がしますので、やはり今候補として挙がっている検討材料の高校あるいは新しく挙がってきた高校、長野市内でもし校名が挙がらないのであれば、校名といいますか、場所的なものが挙がらないのであれば、やはり挙がっている高校で検討していくというのが、流れかなという気がするんですね。

（丸山委員）

ちょっと、私のほうの意見はさっき言ったとおり、基本的にはそうなんです、校名の問題を。校名は2校出ているという話なんだけど、ひとつはやっぱり2通学区との関係もあるし、そうは言っても多部制・単位制をつくるということであれば、それはできるだけ広範囲から通えるということが基本だと思うのです。

それは全く極端に言う、交通の便はあまり考えずに、ある学校が特色づくりで多部制・単位制でいこうという話になって、その地域の生徒たちを集めるということは、それは可能性としてはないとは言えないかもしれませんが、やっぱり多部制・単位制というのは独特な特色なんです。

普通科もあり、職業科もあり、多部制・単位制もありというそういう中で、多部制・単位制というのが、例えば1通学区に1つだとしたら、やっぱり広範囲にできるだけ通えるところという話になるので、そういう点ではちょっと、今出ている2校よりは、もう少しやっぱり今出ている市内ということ、もう少し検討するということが必要だろうと思

ます。

もっと極端な話をすると、長野市内に出せないというのは、やっぱりつぶすからですよ。長野市内の学校をつぶして多部制・単位制に変えろということは言えないからですよ。私も含めてね。

それは変な話で申しわけない、言いがかりで申しわけないけど、長野南をつぶすという話の中で、北部のほうの数は一定程度、北部の高校の数は一定程度確保してという話が、県教委の説明であったけれども、それと根底では流れる思想は一緒に、長野市内にある学校をつぶすというのはなかなか難しいよという話になるんですよ。

だからつぶすという問題は、そういう問題にかかわってくる。だからもう少し2通学区の関係も含めたかたちで、今のこの話はこういうふうなところで一応置いておいて、もう少し全体の削減が出ているわけだから、その削減するところも、みんなほとんど普通科がつぶれていくわけですので、普通科がつぶれることについて、バランス等もあるので、この議論はここで一応ここまでにして置いて2校で絞って、その中で考えようとか、そういうふうにするのはまだ早いのではないかと思います。飯山とか中野とか、まだ長野南の問題や松代の問題、中条の問題も、十分議論していないわけで、今は候補案についての問題点を出し合っている中で、こういうふうに特別坂城に対しては屋代南が出てきたという話なだけだから、全体のバランスを考えていかなければいけないと思います。

私は長野南がどうなるかということは、大きいと思いますよ。多部制・単位制にかかわって。それから中野が1つ減るかどうかなということも、大きいと思います。飯山が減るのも大きいと思います。そういう点では、全体のバランスを考えていかなければいけないので、1個1個固めていくというのは、1通学区については無理じゃないかと思います。

(中村委員長)

丸山委員のご発言で、1個1個固めていくというのは、例えば多部制・単位制をもう「ここ」に決めて、次総合学科高校を決めて、そういうことですよね。それは当然無理なことだというふうに思います。

今日していただいたのが、多部制・単位制、都市部へ、それに関連してたくさんご意見をいただいたのですが、ぜひ議論しておかなければいけない経過だというふうに思っ取り上げました。

もちろんほかに総合学科高校、それから個々の再編案の検討材料というのはたくさんあるわけです。ある程度深く触れておいて、また全体をとおして違う議論へ進んでいかないと、それぞれ関連していることですのでいけないかなと思います。

確かに校名が挙がっていないから検討しないというのは乱暴な話ですので、そういうふうには決めることはしませんが、やはり名前を挙げられないというのは、適切でないから挙がらないというのもあるわけです。

「勇気がなくて挙げられない」というのと、その「責任が持てない」立場にありますので、発言して議論の過程の上では構わないと思うのですが、具体的な名前を挙げていくということは、大変難しいことですから名前を挙げられない、そういう理由と多部制・単位制を例えば長野市内のある特定の高校に設置するという案を挙げたときに、それは多部制・単位制の交通の面から見たらそこが最適かもしれませんが、例えば普通科を転換して

いくということになってしまうと、そちらの影響も非常に大きいわけで、具体的にはそうやって転換していくことができないであろうという理由もあるわけです。

ですから名前が挙がらないというのは、やはりそれなりに理由があるということだと私は思います。中沢委員に校名を挙げていただきましたが、それを検討しなければいけない。それに対しては、意見が出ないわけですので皆さんご意見があるのかなのか、よくわかりません。

（宮本委員）

すみません。

前回の推進委員会で屋代南の名前が挙がりまして、私は地元ですのでいろいろと難問もあるかなという気がしていましたが、やはりスタートの段階は多部制・単位制って何だということで資料をいただきたいというふうに来まして、地元とすればというより関係している地域としては、多部制・単位制ということがどういうことかということ自体が初めの候補案で出ませんでしたので、もちろん坂城は出ましたからいろいろと勉強したり、視察していろいろなことを考えましたが、やはり後から出た名前については、今からいろいろと地元でということという段階でして、やはり地域の人たちも、どういう高校かというイメージが浮かばない段階だと思います。

だから少し、前回も言いましたが、地域の理解を得ながら進めていくべきかなというふうに考えています。

もうひとつですが、中学校の生徒、親は経験ありますけれど、中学生にしてみますと、先ほど丸山委員から出ましたが、特殊だというふうに出ましたが、実は子どもたちから見れば、普通科だって特殊なんです。

私たちは高校を卒業しましたからイメージがありますが、子どもたちが定時制へ行けば定時制が「普通」なんです。ほかのところを経験しているわけじゃありませんので、やはり普通科がもちろん多いですが、定員数が多いから普通だという感じが、全体から見ればそうですが、子どもたちからすれば単位制だとか普通科だとか定時制だとか、いろいろな種類がありますけれども、それ自体がすべての特殊なものでして、あるいは反対にいくと「普通」という感じを持っています。

現に高校は、子どもたちの進路を見ますと、先ほど輪切りと言いましたが、そこまでは言えない。子どもたちも、今、いろいろと入試改革が変わってきましたので、以前ほどじゃないと思いますし、現に子どもたちが自分で意欲を持って、いろいろな高校を選べる段階に入っていますので、先生たちが進路をある程度支援する立場ですので、あまり「ここだ」ということは言いませんし、現に言っただけいけないと思っていますし、そんな段階です。

子どもたちとすれば多部制・単位制も入る子どもたちとすれば「普通」で、やっぱりいろいろな魅力を引き出しながら、その高校を選ぶというようにしていかなければいけないし、そういう高校をつくっていかなければいけないのではないかなと思います。

そんな面で、もし屋代南高校という名前も出ましたが、やはり地域としてみたら、少し時間をおきながら、じっくりともし名前をそこに検討するならば、時間をおかなければいけないかなと思います。

飯山の話で、初めに小山委員のほうから出ましたが、いろいろと段階を踏んでみながら、話を持ったというのはとてもいい例かなというふうに聞いていますが、私は地元にいました千曲市の段階だと議論を見守ったり、ちょっと勉強しなければいけないのかなという感じではいます。

以上です。

(中村委員長)

ありがとうございました。

都市部へという議論がかなり深まったと思いますが、そろそろ議論も戻ってききましたので、まだ検討することがたくさんあります。やはり候補案に関して、議論を進めていくのがよろしいのではないかと思います。今日は総合学科高校等も話題になればと思っていましたが、今日はそこまで行きませんでしたので、次回総合学科あるいは統合案が出ている高校のことについてお話をしていただきたいと思います。

また結局は同じことになるのではないかなと思うのですが、しかしそういう議論をしてあるという経過が非常に大事だと思います。

何か特別ありますか。そろそろ時間も気にしながら、今日のところはまとめに入っていかなければいけないのですが。

(坂口委員)

今、宮本委員さんのほうから地域の理解あるいは強力な盛り上げ、後押しが大事だというようなお話がありましたが、かなり前にこの高等学校改革プランにかかわる経過およびスケジュールということで、表が資料として出されております。

平成 18 年度高等学校改革プラン実施計画の実施というようなことで、今まで出たスケジュールはこの表だけでしたでしょうか。結局親御さんの不安というのは、さっき長野南の P T A の方が、1 年生が卒業するときになくなるのかというような不安というのが、このスケジュール表が、我々も十分はっきりしない部分があるんじゃないかなと思います。

ですから今 3 年の進路担当も、非常にある面では苦慮しております。またこのあいだの長野市の校長会のほうでは、県の義務教育課のほうの主幹があって、「平成 18 年度に関しては今までどおりの進路指導で結構であります。入学した生徒は、学習の保障はされます」というようなことでさっといってしまうと、これでいいのかなとちょっと疑問を持ったわけです。

このスケジュール表で 18 年度以降のところは、もう少し我々も、あるいは先生方も、あるいは住民も、わからないと何かここでやってはいるんだけど先が見えない。学校が減って、どこの学校が統廃合されるということは決まっているんだろうけれども、その先がちょっと見えないというところに非常に大きな不安があるんじゃないかなと思います。

前回、前々回でしたでしょうか、あまりにもこの 2 年とかそういうところで統廃合という、2 つが 1 つになるにあたって期間が短いんじゃないかと、いろいろな問題があるのに、「いや、できます」というように、簡単に言ってしまったような気がするんですが、どうも高校の先生に聞くと、これはもう他県の話なんか聞いても、2 つの学校の教頭さん同士が、1 年かけてどういう学校にしていくのかというような、そういう期間がかなりいるん

じゃないかと、そういう話を聞くにつけ、相当長野県のそこがあるときは拙速で先が見えない、これはもうちょっと我々に、今、可能な範囲で結構ですので、もう少し具体的なこのスケジュール表を提示していただけないかどうか、それを非常に希望したいのですが、県のほうではこの先当然考えているんだろうけど、もう少し具体的な部分を示していただければありがたいかなと思います。

中学校としても、進路指導のあり方等々、やはり考えていかなければいけない部分があるものですから、欲しいなという。私だけなら、やむを得ないかと思いますが、そんなお願いをしたいと思います。

以上であります。

（中村委員長）

中学生の保護者、それから中学生自身も、不安がそこなんですね。一体自分がこれから受験して入っていく高校がどうなるのか、そのところが一番心配される、不安に感じていると。

県のPTA連合会の赤羽会長さんも、県の教育委員会に要望書を提出するにあたっては、具体的に再編される高校がどうなるのか、そのイメージを私にメールで送ってくれました。何回かやりとりをして、赤羽会長さんは、「私のイメージは少し違っていました」ということをおっしゃって、最終的には要望書にまとめる段階で、出された要望書の文面になったわけですが、そのときにはやはりA校、B校があって、A校とB校を再編する、校舎はA校を使う、B校はどうなるのか。

A校は「A=A」のままで行くのか、名前についてです。B校は名前はなくなるかもしれませんが、あるいは「A=B」になるかもしれないし、あるいは新しい「C」という名前になるかもしれない。そういうところも、イメージとしてやはり大事なのではないかと言っておられました。

事務局のほうのご意見は、あまり具体的な名前を申し上げるのは、あくまでも検討材料なので控えたいことだと思いますが、やはり一体高校がどうなるのかということが、かなり例を示してやらないと、皆さん持っていらっしゃるイメージがずれている。その点での不安は、非常に大きいという部分だと思います。

今、坂口委員からのご意見は、事務局にももう少し具体的な例示をしていただきたいととらえてよろしいですか。

（坂口委員）

A校B校は置いておいて、この18年度で高等学校改革プラン実施ですか、それだけでスケジュールなんですね。我々理解はできないわけですね。具体的にその、19年度あるいは20年度を見越した、もう少し改革プランの検討のスケジュールの中身をもうちょっと示してもらえないかというようなことなんです。

(中村委員長)

一時丸山委員から、2つの高校が一緒になることは非常に大変な作業になるということをご紹介いただきましたけど、そういう話ですか。

(坂口委員)

そうですね。それにかかわるものですね。

内容に触れながら、実際どうなっていくのだと。学校名は当然出ていませんので、決定していませんので無理なんだけど、タイムスケジュールとして、18年のたった一行だけで我々はわけが分からない。

もう少し細かな中身が、何をこれから県の高校教育課のほうは、こういう具体的にやっていくのかという、そういうタイムスケジュールがもう少し欲しいなという希望なんですね。

(小山(元)委員)

関連して、ちょっとお願いします。

第1回目のときに配られた、高等学校改革プラン推進委員会の検討依頼事項が、4項目にわたって出されましたが、今の坂口委員さんに関連してですが、この中にスケジュール関係が入っていないわけですね。

ですが各地域でやはり声をいろいろ入ってくるところでは、この短いところでこれだけの内容をやりまして、それで県のほうへ出しまして、県教委のほうに出しますが、そこへいわゆる実施するについて数年延ばすようなことは考えられないか。

伸ばしてほしいというような要望も、例えばこの推進委員会に出した場合、それが受け入れられるのかどうか。またそういうことをこの推進委員会で、要望として出せるのかどうか。要望は出しても、推進委員会としてまとめて上へ持っていったときに、上のほうで答申した場合、それが受け入れられるのか。

今のスケジュールに関して、やはり一番大事なところなので、お聞きできればと思いますが。今日でなくても結構です。

(丸山委員)

私も今の問題を、次回でいいので聞きたいのですが、乱暴になりますが、イメージってこういうことですか。多分こうなるという。例えばAとBが統合しますね。それは私が言ったように実際には今のスケジュールでいうと、数カ月で全部中身をつくって募集を始めるということになるわけです。

それは無理だという話は置いておいて、AとBが統合しますね。それで19年度に募集がスタートしますね。そうすると校舎を使うほうのA校については、もちろん名前も変わってC校になるかもしれませんが、C校については、C校の1年生の新しい募集と、A校の時代の2年、3年がいるわけですよ。それでなくなる校舎を使わないでいい高校は、2年募集を停止になって、2年、3年生がいるわけですよ。それが2年間、3年間続くわけです。

それでB校のほうはなくなって、校舎を使うほうの新しいC校が全部学年がそろうということですよ。それを一斉に全部候補案のとおりにはバサッと19年でやるとしたら、私も今

計算しているのですが、19年から最初の何年かにわたって、場所によっては、学校によっては、区によっては、10年くらい、あるいは7、8年くらい8学級くらいが出てきてしまうんですよ。8学級が2つそろうところ、4通なんか特にそうですね。

そういうふうなことがあるんで、今の小山（元）さんがおっしゃったように、前から出ているけど年次的な計画ということも、これは前に実は何回目でしたっけ。それを話したら、附帯決議をまとめて、ここの委員会でまとめてつけてもらえれば、それを参考にしてみると言ったことは、ちょっと事務局が言った覚えはあります。

その辺は次回でもいいですので、その辺のイメージがわからないものだから。だって現実には19年からになると、今の中3生が最後の生徒になるんですよ。そういう問題もイメージとしてわからないんですよ。今の3年生は大丈夫ですよと言いますが、最後の生徒になるんです。そういうこともイメージとして考えていかないといけないと思いますので、次回でもいいのでその辺はちょっと議論してほしいと思います。

（中村委員長）

次回、論点がそのあたりにあると思います。それとももちろん候補案に関する議論も進めなければいけないというふうに思います。先送り、あるいは慎重にということでは何年か先ということなのですが、昨日の県のPTA連合会の要望では、多分先送りというよりは、きちんと決めて、きちんと実行して、アフターケアをしてほしいというそういう要望というふうに、私は解釈しておりますので、1年先延ばしということになればそれだけ不安に思う生徒がたくさん出る。

それから少人数の教育には、それなりのメリットがありますが、デメリットも、どんどん増えていくというふうに思うのです。ですので、時間を決めてやはりそれまでの中の議論で最大限努力をして決めていく必要があるかと思っています。

ということで、今日は時間となってしまいましたが、ほかに何か議事の進め方、あるいは何か提案がございますでしょうか。

（小山（壽）委員）

ひとつお願いをしたいのですが、先ほど若麻績委員さんのお話で、在校生ですら今後どうなるか不安だと。校名を挙げられた学校については、普通の人やはり非常にそこへの進学をためらうという空気は確実にあるわけです。

その辺で県の教育委員会として、これまでの例えば中学校の進路担当の先生に対する説明会に、各通学区ごとの説明会に同席をしてもらって、高校教育課から話をしてもらうということもやってきているわけですが、しかしそれでも不安は十分消えているという状況ではない。

ぜひそこについても、何らかのさらなる対策といいますか、ケアといいますか、その辺もちょっと考えていただいて、「これからこんなことをやっていきますよ」という提案をしていただければありがたいなと思います。

(中村委員長)

事務局、その辺をご検討いただいて、お願いしたいと思います。次回、お答えいただければと思います。

ほかに何かございますか。

それでは、お手元に今後の皆さん方のスケジュールのアンケートが行っていると思いますが、またあらためて確認したいということですので、ご記入いただきたいと思いますのですが、次回の日程について事務局のほうでお願いいたします。

(三澤教育支援主事)

9月の日程につきましても、非常に各委員さんお忙しくて、なかなかスケジュールが、それぞれ合わせにくいというのがありましたが、10月、またスケジュール等変わってきているかと思われますので、お手元にございます日程確認表につきまして、都合が悪い日にバツ印をご記入ください。後日、ファックス等でいただければと思います。

その後、至急この辺の日程だろうということをお決めいたしまして、委員長さんと相談の上決めさせていただきたいと思います。

(中村委員長)

大体概略でもいいですが、今、県会が始まりましたが、これは関係がありますので、日程的には事務局が大変な時だと思うのですが。中旬以降ということでしょうか。

(三澤教育支援主事)

第2週、中旬以降となると考えております。7日、8日以降くらいからと、それと休日のあたり等が具体的には候補になると考えております。

(中村委員長)

この間の長野南高との討論会で、吉江課長から月3回との発言がありましたけど、場合によっては議論を集中して行うというのは必要だなと思いますが、回数を増やすと多分出席される委員さんが減るという面もあると思いますので、その辺もお考えいただいてできるだけご都合をつけていただいて、出ていただきたいと思います。

それでは、何かほかにありますか。よろしいでしょうか。

はい、ふらふら議事が動きましたが、かなり突っ込んだご議論をいただいたと思います。ちょっと意見が出にくい議題ではありますが、努力して詰めていきたいと思います。

第8回の推進委員会を、これで終了させていただきます。

どうもご苦労さまでした。